

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472700414		
法人名	医療法人桜木記念病院		
事業所名	グループホーム桜木さん		
所在地	三重県多気郡多気町仁田670-20		
自己評価作成日	平成 30年 10月 25日	評価結果市町提出日	平成30年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2472700414-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2472700414-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 11 月 12 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と緑に囲まれ近隣には多気町民憩いのある天啓公園があり、役場・地域包括支援センター、そして防災の要の消防署も全て5分圏内にあり、さらに利用者様との買い物にもとても便利な商業施設もあり抜群の立地条件の中にあります。2ユニット18名の入居者様が家庭的な雰囲気のもと手厚い介護をおこない地域の皆様に愛されるグループホームを目指し職員一同頑張っております。経営母体が医療法人となっているグループホームですので24時間365日医療連携をとりご家族様にはご安心いただいております。訪問看護師、薬剤師、OT,PT,ST、管理栄養士の定期訪問もあり様々な角度から入居者様の健康管理をおこなっております。医療面以外にも音楽療法、くもん式学習療法、リフレクソロジー(足裏マッサージ)も取り入れ充実を図っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年目に当たる事業所は、緑豊かな環境の下、母体の医療法人の手厚い見守りをベースに独自の支援を展開させている。地域との連携も年々深まり、事業所で開催している夏祭りが地域の夏祭りにとって代わり、毎年大勢の参加者で盛り上がっている。また、利用者の構成が変化して元気な利用者が増えたため、一部ではあるがグループホーム本来の活動ができるようになってきた。職員は、とにかく利用者を笑顔にして元気づけようと、いろいろなアイデアを出し合って支援している。管理者も、そういった職員の思いを応援している。利用者は職員の助けを借りながらも、家事を分担して体を動かすことを楽しみに毎日元気に過ごしている。『尊び、心から尽くし介護させていただく』という理念を実践に結び付け支援している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊び心より尽くし介護させていただく」を理念に掲げ人生の大先輩として業務的な介護にならないよう理念の意味を意識づけをおこなっている。理念は事務所、両ユニットの目のつくところに掲示しており、毎朝のミーティングのなかで出勤者全員で唱和している。	理念を日常のケアに結び付けることを目標に、さらに具体的にかみ砕いた『職員の心得15か条』なるものを管理者が作成し、職員全員が同じ思いで利用者支援に当たっている。理念から外れたケアには管理者が個別に話をして修正している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の神社の夏祭りに宮司さんより手作り灯笼の依頼を受け入居者様と作成し祭りの当日に入居者様と一緒に掛け地域の交流を行っている。今年度も法人の夏祭り以外にも地域の方に協力して頂き夏祭りを開催できた。	地域の祭りや法人の夏祭りなどで地域の盛り上げ役として信頼を得ている。また、来年2月には、町からの依頼で『認知症介護者の会』を開催予定であり、地域に期待される事業所になってきている。	予定している『認知症介護者の会』の開催が大いに地域貢献の場となり、今後も継続していられるよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近隣の中学校の職業体験受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、自治会、地域包括、役場、近隣事業所の方をメンバーとして近況報告や話し合いできるように取り組んでいる。会議の意見交換をもとにサービス向上に努めている。	今年度は年6回の開催があり、事業所の現状報告や行事報告をして貴重な意見交換の場になった。参加者から出された意見を運営に反映させている。	地域の様々な立場の人々に会議への参加要請をして、参加者の幅を広げ、さらに活発な意見交換の場となるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	母体法人の意思が認知症サポート医をしており町内の認知症初期集中支援チームの一員として活動をしている。会議の際には管理者、ケアマネと共に会議に参加し活動についての話し合いを行っている。	運営推進会議に参加してもらうことから、様々な手続きで役場に出向く機会が多く連携は取れている。地域の認知症のサポート役となり、期待されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則的に行わない取り組みを行っている。職員には、研修、勉強会などで認識を高めている。	利用者の閉じ込めにならないように、玄関は夜8時まで施錠はせず、帰宅願望があれば職員が同行して本人が満足するまで付き合って歩くなど、利用者の思いを大切に支援している。身体および言葉による拘束ゼロに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の職場での言葉使い、会話内容など問題がないか、身体チェックを含めて見過ごがないように努めている。会議全体の中でも虐待防止に向けての話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度や身元保証を委託するなどの権利擁護面をカバーする援助計画必要に応じて立案し、実行している。また、関連する情報を利用者様の家族様へ積極的に提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間を取って契約書、重要事項説明書の説明を十分に行い同意を頂いている。不明な点があれば気軽に問合せ頂けるようにお話しをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族にアンケートをおこない、ご意見、ご要望などを聞き運営に繋げている。今年度より法人全体の祭り以外にも独自で夏祭りをおこないお越しになられた家族様と積極的に面談をおこない他行事の開催の際にもお声かけをさせて頂いている。	家族とは面会時や事業所便り・健康状態の報告などきめ細かに連携を取っていて、家族からの信頼は厚い。今年度は初の家族会を予定して、職員や家族間の交流を図る予定である。	事業所独自のアンケートを取るなど、家族の想いに耳を傾ける姿勢は素晴らしい。家族会が有意義なものとなるよう取り組みに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見や提案ができる雰囲気作りに努めている。月に1回の業務会議の中でも報告させて頂いている。家族様の生の声を聞きサービスの質の向上に努めている。	管理者との個人面談を年2回実施して、職員の本音や要望を聴き、運営やケアに反映させている。利用者にとって有益なことで、やりたいことがあれば、まずやってみる姿勢を支持している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りの為にも、ストレスの出ない勤務体制系を築き、十分な休息を取れるように調整し、職員個々の向上心、仕事に対するやりがいが持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加、外部の研修は個々にあった研修を勧めたり、希望をとり、多数の勉強会や研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回町内の事業所や病院関係の方と定期的に食事をしながら交流会を行っている。半年に一回は町内の事業所の交流会もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを大切に、不安を切り取り除き安心が得られるように日頃から会話を大切に声かけ、寄り添いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、これまで困っていたことなどゆっくり時間をかけてお聞きし、状況を把握したうえでどのように対応してゆくか検討していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までに家族と面談、事前調査、事前確認、主治医やケアマネからの情報提供から必要とされている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話だけでなくスキンシップをおこない、心許せる近い存在であるように心がけ一緒に楽しんだりする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の生活の様子などを報告して利用者の相談をしたり、家族の相談にも応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊等自由に行動できる。ご家族や親類や友人の面会をいつでも来て頂けるよう環境を整えている。	知人や親せきに年賀状や手紙を出す支援をしている。友人などの訪問は年齢的に少なくなってきている。地域の包括支援センターで開催されるカフェに出掛けたり、馴染みのスーパーで買い物をする楽しみがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や個性を把握して間に入りコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られ場合は、ケアプラン、介護情報の提供を行っている。母体の病院に入院されたかたは見舞いに寄ったり、家族に会った時などはご相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情・行動から何をしたいのか、どうしたらいいのか等を把握できるように努めている。コミュニケーションを取る事が困難な方が多いので家族様からの協力を得ながら探っている。	利用者の様子や表情から、その日の気分や思いをくみ取っている。何か気になることがあればすぐに言葉や申し送りノート・介護記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に居宅のケアマネより情報をもらったりアセスメントシートを元に家族様より聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を監視し、日誌に記録して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を聞いたり、各入居者様のマニュアルを元にケアの統一を図り、ユニット担当者とカンファレンスの際に話し合いをして介護計画を作成している。	家族の面会時に意見を聞き、職員が毎週プランに対する評価を行い、最終的に全体のカンファレンスで検討し、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、医療連携シート、マニュアル一覧の評価をする事で情報を提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が病院であることで医療連携を取り、日々の体調変化に伴い多職種連携をしている。生活をしていく上で必要な(買い物、通院、外出)支援に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、中学校の福祉体験の受け入れ、地域のお祭りの行燈作りにもらってる事を実感している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を決めていただき定期受診や体調に体調に異常がある時受診・往診依頼をしている。訪問歯科(義歯調整・口腔ケア)の要望にも適切に支援している。	入居時に確認を取って全員が協力医の受診となり、毎月1回協力医の定期診療がある。また、母体から様々な多職種のスタッフが毎週連携して訪問し、利用者の健康をチェックをしている。訪問看護師が毎週観察に訪れて、医師に報告して連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の病院と医療連携をとっているので日常の健康管理についての相談(状態報告書)心身の変化や体調異常時は看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時カンファレンスを通じて母体の桜木記念病院の多職種と家族様に参加してもらい早期退院を目指し協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の要望を聞き、看取りに関しての説明をしている医師や看護師を含めた多職種連携により良いケアの方針を共有し終末期の支援をしている。	入居の際に看取り指針を基に利用者・家族に説明し、ターミナルを迎えた時には、さらに詳しく医師の意見を交えて話し合い、同意書を交わしている。職員は看取りケアについての研修を受け、不安なく取り組んでいる。今年度5名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について母体の看護部長による勉強会を通じて一人ひとりの状態に応じ実践力を身につけている。さらに年1回、救急救命士による緊急時における訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議の際、消防署から避難方法、自治会へ避難時の協力をお願いをし協力体制を築き、年二回消防訓練を実施し昼夜を問わず入居者様がスムーズに避難できる方法に取り組んでいる。	今年度は、消防署立会いの下、夜間想定避難訓練を交えて2回の訓練を行った。毎朝の申し送り時に、その日の「緊急時の担当」を発表して災害に備えている。車椅子利用者の居室の入り口には、分かり易いように車椅子のマークを付け、スムーズな避難誘導ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へ援助が必要な時はプライバシーには充分配慮する事を日常的に心掛けている。現場での申し送りには個人名を使わずイニシャルを使っている。	居室に入る時には、居るいないにかかわらず了解を取るようして利用者の安心につなげている。食事の介助に入る時にも、まずは断りの言葉かけを忘れずにしている。入浴時に同姓介助の要望があれば叶えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員手動にならないように、本人の意向を十分に配慮するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならないように、本人の意向を十分に把握するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に福祉訪問理容を利用している。自分の好みの髪型の希望を聞いてもらえるように理容師一人ひとりに声かけをしている。新聞広告をみて近くのスーパーへ買いに行ったりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は旬の物を使い朝、昼、夕と全て手作りで提供させて頂いている。なるべく調理して直ぐに温かい物を提供できるようにメニューを見て時間配分を考えながら調理している。下準備はなるべく入居者の方に手伝って頂き役割分担を行っている。	食事の下準備や盛り付け等、利用者ができることは時間がかかっても参加してもらっている。おやつ作りには、利用者が喜んで積極的に参加できるよう工夫している。窓の外にはみんなで皮をむいて作った干し柿が吊るされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの嗜好、体調を把握しバランスの良い栄養摂取ができるよう母体の管理栄養士、言語聴覚士の指導を受けながら必要に応じて刻みやトロミで対応、夜間でも水分補給ができるようにペットボトルに白湯やお茶を入れて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にて口腔ケアを行っている。本人の力に応じて声掛け、見守り、全介助にて行っている。分からない事は協力歯科医に聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じ水分の摂取量と尿量を計測している。使用オムツ類もその都度検討、変更している。	自立で排泄できる利用者からオムツ利用者まで一人ひとりの排泄パターンを把握して、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。トイレ誘導の声掛けも工夫して、利用者の気持ちを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、飲水、繊維質の多い食事を心がけている。排泄チェック表で入居者一人ひとりを把握し早めの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する入居者様に対する声掛けや対応の工夫、入浴時間、温度、頻度など一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	毎日午後から入浴支援をしている。平均週3回で、自立して入浴できる利用者に関しては、毎日でも可能である。入浴以外に、時には手指浴や足浴支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日にはなるべく園外に出て太陽の光を浴びて日中の活動を促し、生活リズムを整えて、夜間気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった際は、臨時薬記録シートに記入し職員が把握しやすいようにしている。薬が切れるまで小さな変化も主治医に相談や報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニットの入居者様で朝の掃除をしたり、掃除の後はホットコーヒーを皆さんで飲んで気分転換を図っている。助け合いをして共同生活をしているので御礼を必ず言って張り合いを損なわない様になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調を見ながら、本人のその日の気分や希望に応じて散歩に出かけたり、近くのスーパーに職員と一緒にしている。月に一回は季節のドライブの計画をしている。	気候のいい日には、玄関前の広場に出て体操をしたり、事業所周辺を散歩している。また、近くのスーパーに買い物に行ったり、季節の花見を兼ねたドライブを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて所持して頂き職員と家族が連携して、いくら所持しているのかを共有している。買い物の希望がある時には、事前に何を購入していたかを聞き家族にも了承をもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族への手紙のやり取りを家族協力のもとに支援をしている。電話希望時は職員に声を掛けて頂き時間帯も考慮し、家族の了承を得て支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日施設内の清掃、居室チェックをおこない清潔な環境を維持する。各居室の入り口には季節の飾りやリビングにも季節に合わせた装飾をして季節感のある空間を作っている。	リビングは広く、窓は大きくて明るい。利用者はゆったりとしたソファに腰かけくつろいでいる。壁面や居室の入り口には利用者が手作りした季節の花や書道で書いた俳句などが飾られていて、職員の意欲的な取り組みが随所にみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを観たりテーブル席で雑誌を見たり趣味のものを楽しんだり、庭にはベンチが何か所かあり思いおもいに過ごせる様な居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、相談し制限はないので個人の好きな物、使い慣れている馴染みのもの(家具、家族写真等)を持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるように家族と相談しながら工夫している。	居室はベッド・クローゼットの他、利用者が家庭で使用していた家具を持ち込み、一人ひとり個性あるしつらえになっている。どの部屋もきれいに整頓され、掃除も行き届いている。法人全体でピカピカ運動に取り組み清潔を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設内は全てバリアフリーになっており手すりの設置、トイレは車椅子対応の広さを確保、一人ひとりの身体機能に応じて家族様と相談しポータブルトイレを設置、安全に生活が送れるように支援している。		